



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中国雲南省における女子高校生への教育支援に関する事例研究：非経済的支援の長期的な効果について [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	王, 寧
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(環境科学)
Dissertation Number	甲第15102号
Issue Date	2022-06-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/86606
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	WANG_Ning_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士 (環境科学)

氏名 王 寧

審査委員	主査	教授	山 中 康 裕
	副査	教授	渡 邊 悌 二
	副査	特任准教授	平 田 貴 文
	副査	准教授	山 下 哲 平

(日本大学生物資源科学部)

学位論文題名

中国雲南省における女子高校生への教育支援に関する事例研究
—非経済的支援の長期的な効果について—

(A case study of educational support for high school girls in Yunnan
Province, China - The long-term effects of non-financial support)

「万人のための教育」など国際目標(UNESCO, 1990)から、「我々の世界を変革する: 2030 アジェンダ」(United Nations, 2015)の持続可能な開発目標(SDGs)の目標4「質の高い教育をみんなに」に至るまで、教育の重要性は国際社会に認識されている。その中に女子教育の普及が目標5「ジェンダー平等を実現しよう」の達成するための重要な役割を担っている。次世代への教育支援は、彼らが住む自然環境の保全に直接的につながる環境教育を行う土台として、いわば「急がば回れ」として、環境問題の解決にも長期的に貢献する。

教育支援プログラムはNGOなど支援機関より運営され、それによって、子ども教育などへ使う奨学金など経済的支援に加えて、支援者と子どもの手紙のやり取りや支援者が子どもへの訪問するような非経済的支援が提供されている。教育支援効果に関する研究では、その多くが経済的支援と就学率・卒業率などの定量的な分析、もしくは、支援者の視点からの非経済的支援効果に関する議論を行っており、支援される側の子どもたちの視点からの非経済的支援効果に関する研究は数少ない。本研究は、中国雲南省における貧困な女子学生に対する教育支援を対象に、支援される側の子どもたちの視点から、彼女らに対する教育支援の長期的な影響について事例研究を行った。

第2章では、女子学生へのインタビューや支援者が参加した卒業式への参与観察などの質的調査により、非経済的支援の長期的な影響を明らかにした。支援者との手紙のやり取りや支援者が参加した卒業式での交流を通じて、彼女らは、支援者を自分の友人や家族などのような存在と見なし、支援者との手紙の交換についても経済的支援の見返りとして強制されたものではなく、好ましい経験として認識していた。彼女らは支援者の経済状況などを理解し、「支援者のように他人を助けたい」といったように、支援者を自分のロールモデルにしていることも分かった。すなわち、非経済的支援は、彼女らへの重要な精神的な支援として、彼女らの成長に好影響を与えていた。なお、このような非経済的支援も、順調に手紙のやりと

りができなかった学生に対しては、ネガティブな効果となっていた。

第3章では、第2章で用いたインタビューと併せて行った、卒業生へアンケート調査等から、彼女らのキャリア選択や移住意向など未来の進路に対する教育支援プログラムの長期的な教育支援プログラム影響を明らかにした。教育支援された彼女らは、ほぼ全員個人の意思通り、大学に進学できていた。「仕事が安定してから結婚したい」という回答が多いように、彼女らは10代で結婚した両親や彼女らの小学校での同級生とは異なる意識をもち、早婚を避けた異なる人生を歩み始めていた。また、彼女らの半数が都市での生活を選択し、もう半数が地元へ戻る選択をしていた。前者の大部分も、上海や深圳といった沿岸部の大都市での生活ではなく、省都の昆明などの雲南省内の都市に留まる選択をしている。後者のうちの約半数は、教員養成のための師範大学への進学を選択し、大学卒業後に故郷に戻ることを希望していた。地元へ戻った彼女らは、故郷の発展に貢献する可能性が高い。彼女らは、両者の進路に対して理由について数多くのポジティブやネガティブな回答をした。彼女らは、個人の夢や現実について様々な選択肢を検討しながら、将来の進路を選択することになっていた。

本研究は、事例研究として、非経済的支援は、就学支援に重要な役割を果たしていたこと、また、彼女らの多くが個人の意思で進路選択できるようになっていたことを明らかにした。今後、支援を考える際、彼女らの内面的かつ主観的な声に耳を傾ければ、キャリア願望や移住意向など進路選択をより深く理解でき、その不安や迷いについて、対応策を見いだすだろう。このような女性のエンパワーメントは、SDGsの目標4や目標5の達成に貢献することにつながる。

本学位論文は、これまでの支援側からの視点と異なり、被支援者の視点から、貧困な女子学生に対する教育支援の長期的影響を明らかにした。本学位論文で示した重要な知見は、被支援者の視点にもとづいた教育支援に関する学術的知見の発展に役立つことが期待される。また、貧困地域の教育支援を行う行政や支援団体が、被支援者に寄り添った支援、特に非経済的支援を行う際に、留意すべき学術的知見を提供するものとなっている。

審査委員一同は、これらの成果を高く評価し、また研究者として誠実かつ熱心であり、大学院博士課程における研鑽や修得単位などもあわせ、申請者が博士(環境科学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。